

東京都立目黒高等学校 令和6年度学校経営報告

目黒高等学校長 川 原 博 義

R5度経営計画＜今年度の取組目標と方策＞	経営報告 成果と課題
(1) 教育活動の目標と方策 ※『進学指導研究校』として、計画的な学習を指導し生徒の学力向上に努め、自己実現に寄与する。 ＜学習指導＞ ①学習習慣の育成 ・カレンダーアプリを活用し、主体的かつ計画的に家庭学習時間確保や隙間時間活用を目指す。 ・1・2 学年においては、英数国を中心に朝テストを計画的に実施し、毎日の学習習慣を育む。 ・ICT 機器を活用した自学自習の課題提供や振り返りや質問対応等を実施し個別の学習も支援する。 ・e ラーニング等の教育情報外部コンテンツの利用を促進し、計画的な取り組みを指導する。 ・「生活実態調査」による学習事案の調査を実施し、集計や分析、検証を行い学年プラス 2 時間の学習習慣定着を図る。 ②授業改善の推進 ・各教科において新学習指導要領に示された方向性に従って授業改善を行うとともに、観点別評価を適切に実施する。 ・全ての授業に、アクティブラーニングの視点を取り入れ、深い学びとなるよう問いかけの工夫を行う。 ・授業の相互見学や指名制の授業見学、ICT を利用した授業研究等を活用し、効果的な指導法を研究・導入する。 ・生徒による授業評価結果の分析を生かし、各教科で組織的な授業改善を実施し、目黒高校としての目標を目指す。 ・毎時間の授業評価や、授業内の振り返りを ICT を活用して実施する。合わせて質問への個別対応を行う。 ・授業と家庭学習の目的を明確に分け、授業では対話や知識を活用した活動など学校でしかできない内容を充実する。 ③自学・自習習慣の確立 ・自習室等の環境整備や利用時間を検討し生徒の自主学習の支援を行う。 ・自学自習に利用できる大学別のプリントや問題を各教科で準備し、いつでもだれでも利用できるようにする。 ・土曜授業日の放課後に学習講座を設定し生徒の自主的な参加を呼びかけ、学力の定着を支援する。 ・オンライン教育を活用し、出題・提出・添削・解きなおしなど、自学自習をサポートする。 ④言語能力向上 ・すべての教育活動において言語活動を意識し、読解・分析・思考・討論・発信する取組を充実させる。 ・言語能力向上のため、音読の活動を大切に指導する、また、小論文指導や演劇指導などを合わせて実施する。 ・読書活動を推進し、活字離れを防ぎ読解力の向上や表現力の向上に努める。書評合戦を活用する。 ⑤国際理解教育推進 ・国際交流や留学生の受け入れなどを積極的に導入し国際理解を深め、異文化体験や理解を推進する。 ・英語四技能の定着を目指し、英語力向上の指針とするため外部試験を活用する。 ・韓国との国際交流を継続し、友達プロジェクトを推進する。 ・TGG などを活用し英語に親しむとともに、日常の英会話を使いこなし意思疎通や意見交換が出来るようにする。	＜学習指導＞ ①学習習慣 「計画的な学習習慣」(B) 「ICT 活用による自学自習」(B) ・計画的な家庭学習や隙間時間の活用を図れている生徒と、そうでない生徒での差がある。各教科、宿題等や朝テストを通して基礎・基本の定着を図った。 ・e ラーニング等の教育情報外部コンテンツを利用して自学・自習する生徒の割合が増加した。(スタディ・サブリの活用生徒の増加) ②授業改善の推進 (B) ・アクティブラーニング型授業等を実施する教員が増えている。意見交換や相談や教え合いなど、生徒同士の対話的な学びが実践されている。一斉授業から生徒参加型授業となり、主体的に学ぶ姿勢が養われている。また、ICT 機器を活用した効果的な授業が展開され、生徒も i-Pad を積極的に活用している。 ・教員相互の授業見学はできていない。今後は計画的に相互の授業見学ができるよう工夫を図り、授業改善につなげていく必要がある。 ③自学自習 「ICT による授業変化で予習が必要になった」(B) ・図書館を週 3 回、18 時まで開館して自習室として活用している。また、各階にあるフリースペースで自主学習に取り組んでいる。 ・各教科からの課題や予習等の指示が ICT 機器で配信されているが、取り組まない生徒に対する指導が課題である。 ④言語教育 「音読等自粛で効果半減」(B) 一部の授業では、音読や発表等、言語活動を意識した授業展開が行われている。引き続き、各教科での言語活動を意識した授業展開の工夫が必要である。・正しく文章を読む力の育成が必要で、特に読解力が求められる。各授業で読解力や文章力を向上させる授業内容の工夫が必要である。・図書館では、生徒の読書率を上げる工夫が施されている。書評合戦などを活用し、読書による活字離れへの防止対策を図っていく。 ⑤国際理解教育 「全事業中止」(B) ・国際教育の推進に関する行事を学校全体で実施することはなかった。 ・次世代リーダーを希望する生徒の支援を行い、現在留学中である。令和6年度の次世代リーダーについても案内し、希望する生徒がいた場合は支援していく。 ・英語四技能のパフォーマンステストに GTECH を導入し、英語力向上に努めた。次年度も引き続き 1、2 年生で GTECH を活用する計画を立てている。 ・Tokyo グローバルゲートウェイに 1 年生全員が参加し、生きた英語力の向上に努めた。 ・1 年生でオンライン英会話授業が導入され、生徒一人一人が能力に応じた英会話学習を海外と行った。

⑥理数教育推進 ・理数教育研究校として、理数への興味・関心を啓発し課題発見と解決方法の模索統の探求活動を推進する。 ・理数関係の講演会を充実させ、理科・数学・情報関係の理科系を志す生徒の発掘・育成と進学を支援する。 ・日常からの観察や体験から課題や問題を発見しその課題に主体的に対応する能力の開発に努める。 ⑦難関大学進学を目指した進学指導 ・国語・数学・英語の基礎を2年までに固め、3年0学期からの志望校を目指した学習支援を充実させる。 ・5－7受験を目指し、理数科目を切り捨てさせず生徒の目標を達成させる学力を育成する。 ・共通テスト全員受験させ、国公立大学や難関大学を目指し、2次試験対策として個別指導等を充実させる。 ⑧総合的な探求の時間 ・疑問や不思議を抱く習慣の育成、鵜呑みにしない精神を育成し、課題を掘り下げ解決する姿勢を育成する。 ・探究の方法を身に付け、生涯にわたる探究の精神を育み、より良く生きる力を育む。 ・教科横断的な課題や日常の課題など、各自で探究のテーマをもち主体的に解決する努力が出来る人間育成を行う。 <進路指導> ①計画的な進路指導の実施 ・進路指導部が組織的・計画的に進路指導を主導し、担任や教科担当者及び保護者と協力し目標達成を支援する。 ・模試分析会やケース会議を進路部と学年教科担当が分析し、外部専門家の助言も得て進路指導を充実させる。 ②キャリア教育の推進 ・キャリアポート（目高手帳）を活用するとともに、高大連携を推進し、学部学科説明会、大学模擬授業等を実施する。 ・外部機関を活用したキャリア教育を実施し、進学の目標を早期に発見できるよう支援する。 ③長期休業中の講習 ・夏季、冬季、春季講習と部活動等の活動を制限した特別講習期間を夏季・冬季に設ける。 ・講座の質・量を高め、目標を明確にした講座を設定し参加生徒を増やす。 ④進路データの蓄積と校内研修 ・数年間のデータの分析を通して、毎年の段階的目標を立て指導できるよう模試や評定と進学先の分析を行う。 ・分析の結果を校内研修等で全職員が共有し、グランドデザイン等で示す生徒の自己実現を支援する。 <生活指導> ①生活指導の徹底 ・生活習慣を定着させ、計画的な時間利用方法や社会生活の規範意識を高め、学習に集中できる環境を整備する。 ・学校生活や社会でのマナーを守り自他を尊重し思いやりの心を育み、主体的に行動できるように支援する。 ・情報化に伴う、ICT機器やスマートフォン類の利用について、生徒が思考・判断し適正な利用が出来るよう支援する。 ②学校行事の活性化 ・行事の主体を生徒会や実行委員会に委嘱し、生徒による自主・自律的な取組となるよう見守り支援する。	・英語科中心に英語検定を実施し、生徒の英語力向上に取り組んだ。 ⑥理数教育推進「生徒の理解に対する興味関心の向上」(A) ・今年度は東京都の理数教育推進校としての指定を受けることはできなかったが、推進校指定時と同様に、大学教授等による講演会や実験等を実施し、生徒の理数への興味関心を高めた。 ・理系進学希望者を増やすため、生徒の興味・関心を高めるように幅広い分野の講演会等を実施した。引き続き、理数教育の推進を図っていく。 ⑦難関大学進学「守りの姿勢が強い傾向」(C) ・入学時からの継続した志の育成と学習習慣の定着が重要である。あきらめさせない指導、第一志望を目指し続けていく指導を、学年および進路指導部で連携しながら行った。引き続き、教員の一人一人があきらめさせない指導を実践し、生徒の進路実現を支えていく。 ・全授業で基礎・基本を定着させ、目標を達成させる学力を継続的に育成していくよう取り組んだ。また、講習や補講などを効果的に活用しながら、学力向上を図っていた。 ・外部模試を活用し、常に客観的に自己を見つる指導を行った。次年度も独りよがりにならず、客観的に自己を理解しながら進路実現に向かっていけるように指導する。 ・今年度、難関大学の合格者が前年度より増加することができた。国公立大学や私立難関大学を目指し合格していけるよう、「受験は団体戦」の意識をもって学校として取り組んでいく。 ⑧総合的な探究の時間 (A) ・興味や関心から問いや課題を導き、主体的に調べ、答えを導いていく力を養うことができた。引き続き探究することの重要性を理解し、主体的に学び続けようとする能力の育成を図っていく。 ・今後は教科横断的な探究学習が実施できるよう、担当学年と教科で学習計画等を検討する必要がある。 <進路指導> ①計画的な進路指導「あきらめさせない指導」(A) ・進路指導部が組織的・計画的に進路指導を主導し、担任や教科担当者及び保護者と協力し目標達成を支援する。 ・模試分析会やケース会議を進路部と学年教科担当が分析し、外部専門家の助言も得て進路指導を充実させる。 ②キャリア教育「将来像を具体的にイメージさせづらい」(B) ・キャリアポート（目高手帳）を活用するとともに、高大連携を推進し、学部学科説明会、大学模擬授業等を実施する。 ・外部機関を活用したキャリア教育を実施し、進学の目標を早期に発見できるよう支援する。 ③長期休業中の講習「徐々に参加者が戻ってきている」(B) ・夏季、冬季、春季講習と部活動等の活動を制限した特別講習期間を夏季・冬季に設ける。 ・講座の質・量を高め、目標を明確にした講座を設定し参加生徒を増やす。 ④・データ分析「進路データ分析が進み活用の幅化できた」(A) ・数年間のデータの分析を通して、毎年の段階的目標を立て指導できるよう模試や評定と進学先の分析を行う。 ・分析の結果を校内研修等で全職員が共有し、グランドデザイン等で示す生徒の自己実現を支援する。 <生活指導> ①生活指導「全教員が共通認識をもち指導している」(B) ・生活習慣を定着させ、計画的な時間利用方法や社会生活の規範意識を高め、学習に集中できる環境を整備する。 ・学校生活や社会でのマナーを守り自他を尊重し思いやりの心を育み、主体的に行動できるように支援する。 ・情報化に伴う、ICT機器やスマートフォン類の利用について、生徒が思考・判断し適正な利用が出来るよう支援する。 ②学校行事「生徒の自立した活動の基礎育成」(A) ・行事の主体を生徒会や実行委員会に委嘱し、生徒による自主・自律的な取組となるよう見守り支援する。
--	---

・生徒会、実行委員会の活性化を図り、生活指導部も新しい行事の在り方や方向性を検討し生徒の自主・自律を支援する。 ・目高のよき伝統を継承するとともに、新しいものを取り入れ責任感や共働を経験し達成感や成就感を味合わせる。 ③部活動の活性化 ・自主的な活動として健全育成の中心となる部活動を教員も支援し、積極的な参加を促し有用感やリーダーシップを育む。 ④防災教育の活性化 ・自らの命を守る力を身に付けさせ、自助を確立させる。合わせて弱者に対する配慮や行動が起こせる力を育成する。 ・地域と連携した防災教育や宿泊防災訓練等を実施し、地域に貢献できる共助の精神と行動力を身に付ける。 ⑤2020 東京オリンピック・パラリンピック教育のレガシーの発展 ・オリパラで身に付けたボランティア精神や国際理解教育を継続する。また体育祭のオリパラ競技をさらに発展させる。 ⑥健康増進 ・ヘルスプロモーションの考え方で活用できる講演会や保健講話を実施し健康教育を推進し健康について考えさせる。 ・保健体育、体育行事、運動部活動等を活用し、生徒の体力向上を図る。 ・新しい感染症などに対応する、感染症予防対策や物品の備蓄を計画的に実施する。 ⑦環境美化 ・快適な学習環境の維持を図り、自主的な学びの場所を自主的な管理により維持するなど活動を充実する。 ・美化委員会、保健委員会の活動を活性化し、各委員会の通信など情報発信を進め、生徒の主体的な行動を育む。 ・校内のみならず地域や居住地区などでも貢献できるような福祉の精神を育み、地球環境を守る心を育成する。 <広報活動> ①募集対策の工夫 ・募集活動を情報総務部と生徒会で連携し、中学生に分かりやすい説明会等を実施する。 ・ICTを活用した、学校案内、HP、活動報告等を工夫し、学校情報を発信し続ける。 ・小学校や中学校における公開授業や体験学習の機会を利用して本校の取り組みをアピールする。 ②HPの充実 ・定期的な更新で生徒の活動、学校の様子等を適時に配信する。受検生や保護者に本校の特色を伝える工夫を行う。 ③地域連携 ・「人間と社会」の体験活動において、地域との連携を継続する。 ・目黒区や地域社会と連携して防災訓練等を行う。 ・公開講座や施設開放を行い、開かれた学校作りを推進する。 <組織> ①組織運営 ・ライフワークバランスを確保する観点から、月45時間の上限を超えないよう業務の効率化を図る。 ・新しい学習指導要領に基づき、本校の目標を実現する教育活動を行い、組織を必要に応じて改革する。 ・分掌業務の統廃合を行い、情報総務部の新設、保健部の生徒部移管など効率的な学校運営組織を構築する。 ・目黒高校の各内規の見直しを毎年実施し、人に頼らない組織化を図るとともにワンチームとして共通認識を形成する。 ・教科会を定期的に実施し、学習の進行管理を適正に行う。また、結果について分析を実施し、改善に活用する。 ・主幹会議、企画調整会議、教科主任会議の連携を強化するが、事前の意見調整や意見交換を日常から推進する。	・生徒会、実行委員会の活性化を図り、生活指導部も新しい行事の在り方や方向性を検討し生徒の自主・自律を支援する。 ・目高のよき伝統を継承するとともに、新しいものを取り入れ責任感や共働を経験し達成感や成就感を味合わせる。 ③部活動 「91%の生徒が参加」 (A) ・自主的な活動として健全育成の中心となる部活動を教員も支援し、積極的な参加を促し有用感やリーダーシップを育む。 ④防災教育 (B) ・自らの命を守る力を身に付けさせ、自助を確立させる。合わせて弱者に対する配慮や行動が起こせる力を育成する。 ・地域と連携した防災教育や宿泊防災訓練等を実施し、地域に貢献できる共助の精神と行動力を身に付ける。 ⑤オリパラ教育を通して、ボランティア精神や障害者の理解など学び、深めることができた。今後は身に付けたボランティア精神を発揮できるような活動の計画等、工夫を図っていく。 ⑥健康増進 ・がん教育においては医師の講演を行い、健康について考えさせた。 ・がん教育や薬物乱用教室などを計画的に実施し、自己の健康について主体的に考える機会を設け、これからの生活や行動変容を図った。 ⑦5月からコロナウイルス感染症が5類感染症に移行されたが、感染予防対策としてアルコール手指消毒を継続した。ゴミ箱を設置せずに、生徒自らが学習環境の維持を図り、自主的に学びの場所を管理する姿勢の育成を図った。引き続き、自主的な学習環境の整備に取り組んでいく。また、美化委員や保健委員の活動をサポートする。 <広報活動> ①募集対策 「対面での募集活動復活」 (A) ・校内での学校見学会や学校生津明快とともに、校外で実施される学校説明会や進学相談会に、情報総務部を中心に積極的に取り組んだ。募集対策は学校全体、全教員で取り組むものであり、次年度に向けて工夫が必要である。生徒会生徒は、積極的に学校見学会に取り組み、丁寧に見学・説明を行った。 学校見学会 30回(延数) 学校説明会 3回 校外での学校説明会・入学相談会 4回 ②HPの充実 (B) ・ホームページの更新を積極的に行い、情報発信を行った。(年間64回更新/3月10日現在) また、今年度からX(旧ツイッター)を開始し、ホームページと共に情報発信の一役を担った。(年間53回投稿/3月10日現在) ・次年度は東京都による学校紹介動画が作成され、東京都教育委員会HPで紹介する予定。 ③地域連携 ・次年度に向け内容を充実する。 <組織> ①組織運営 「コロナ対策と活動を保障する対応で超過勤務増」 (C) ・ライフ・ワーク・バランスの確保の観点から、月の残業時間45時間以下は概ね達成できた。しかし、業務の偏りや部活動(放課後、土曜日、日曜日、休日の活動)指導から、勤務時間の長時間化が生じる教員が生じている。組織的な校務への取組や偏ったオーバーワークの削減など、ライフ・ワーク・バランスは引き続き次年度の課題である。 ・企画調整会議を中心に、組織的な運営は確立してきているが、情報伝達等では課題が残っている。企画調整会議、職員会議、会議、教科会、学年会、各委員会が横断的に連携し、情報の伝達や共
--	---

・委員会を整備し、各分掌の進行管理のもと的確な業務実施する。 ・定期的な生徒調査を実施し、学校運営にフィードバックする。 ・計画的な校内研修の充実を図る。 ②いじめ・体罰の防止 ・いじめ防止対策委員会を設置し、いじめ未然防止を図る。 ・いじめ・体罰に係る調査を年3回（7月・11月・3月（3年は1月））実施し、いじめ・体罰の早期発見、早期対応を行う。 ・精神的に不安定になりやすい時期に、SOSを受信する相談体制を構築し、情報提供や相談体制による対応を推進する。 ③経営企画室の機能強化 ・効率的な予算編成と執行を継続する。 ・学校徴収金の適正な執行を管理する。 ・施設設備の維持・更新を計画的に行う。 ・計画的に改修工事を申請し、施設設備の適切な管理を行う。 ・適正な契約業務を行う。 ・確実な情報管理を行う。 （2）重点目標（数値目標） ①広報活動を充実させ、募集対策に努める。 ・中進対調査による志望予定者数 ・学校見学会・説明会参加者数 ②生活指導を徹底し、規律ある学校生活を送らせる。 ・1日の遅刻者数 ③普通科進学校としての進学実績を向上させる。 ・国公立大学現役合格者数 ・早慶上理大学現役合格者数 ・GMARCH大学現役合格者数 ・センター試験受験者数割合 ④学力向上のため、長期休業中の講習を充実させる。 ・長期休業中の講習講座数 ⑤生徒の家庭学習の時間を確保する。 ・家庭学習時間（平日）R3年度 1年生、2年生、3年生平均170分 ⑥生徒の学習意欲を向上させるため、検定試験を積極的に受験させる。 ⑦スマートスクール化を推進し、生徒の授業評価の以下項目の満足度を向上させる。（新規目標）	有を徹底した学校運営を図っていく必要がある。 ・将来構想委員会を発足させて10年後の目黒高校に向けた検討を開始した。また、校内規定の見直しを行い、令和6年度校内規定（暫定版）を定めることとなった。今年度中に検討できていない部分もあり、令和6年度も引き続き校内規定の改定に取り組む。 ・各分掌とも、プロパーによる会議だけでなく、学年との拡大部会を計画的に実施し、情報の共有や指導の一貫性等、組織的な指導を心がける必要がある。 ②いじめ・体罰防止（A） ・年3回のアンケートを実施。いじめ・体罰「0」と落ち着いた学習環境が維持されている。早期発見・早期対応を職員内で徹底し、引き続き生徒・保護者にとって安心・安全な学校となるように取り組んでいく。 ③経営企画室 「連携体制もでき緊急対応などスムーズ」（A） 経営企画室における契約業務、施設設備管理や改修業務、学校徴収金等の各業務は、適正に遂行され、学校運営がスムーズに行われた。 ・予算は適正に執行され、次年度予算案についても、学校の実情を踏まえて、適正に予算編成された。また、コロナ感染症対策の配布予算にいても、適正に執行された。 ・今年度は防球ネット拡張工事を実施。年度末より令和7年度9月まで、全館空調工事始まる。また、体育館の照明工事も行われるため、学習活動への影響を最小限にとどめるよう、計画的に実施を進めていく。 （2）数値目標の達成状況 ①募集対策 (B) ・中進対調査による本校志望者数 R5 1.8、→R6 1.6 ・学校見学会・学校説明会参加者数 R5は3028人、R5結果4323人（インターネット申込は激化したが当日欠席多し） ※今年度は大幅増特に男子の増加が目立つ。理系効果か。 ・応募倍率 推薦：3.50倍→369倍→3.25倍 一次：2.40倍→2/24倍→1.96倍（男女計） 男子2.44倍、女子2.02倍（男子躍進） ②一日の平均遅刻者数0.5人を下回る目標 (B) R4全校：0/95人→R5全校1/79、コロナ関連で体調不良者多し ③大学進学実績の向上 (A) ・国公立大学現役合格者数：目標30人 → 13人 ・早慶上理大学現役合格：目標25人 → 25人 ・GMARCH 現役合格者数：目標160人 → 164人 ・大学入学共通テスト受験者割合：目標95% → 97.4% ・GMARCH 以上への進学者割合：目標45% → 33.0% ④長期休業期間の講習充実 (B) ・長期休業期間開設講座数 目標120講座 → 81講座 ⑤家庭学習時間（平日）の確保 (×) 家庭学習時間平均動向学年+1時間の人の割合22.2% ※アンケートの回収や内容を次年度精査の必要がある。 ⑥実用英語検定保有者 (B) 151名 ※英語教育推進校でGTECを1年生が全員受検している。検定の種類の方向性が変更。 ⑦授業評価の授業満足度の向上 (A) ・授業満足度 目標90% → 85.7% ・ICT活用や授業の工夫 目標80% → 74.9%
---	--

